

GIS NEWS LETTER

地理情報システム学会ニューズレター 第93号

発行日 ● 2015年3月25日
発行 ● 地理情報システム学会

目次

新年度を迎えるにあたって	1p	支部報告	3p
2015年度 GISA学会賞募集	2p	分科会報告	4p
学会からのお知らせ	2p	学会後援行事等のお知らせ	5p
委員会報告	2p	事務局からのお知らせ	5p

新年度を迎えるにあたって

地理情報システム学会会長 矢野 桂司

昨年5月に浅見泰司先生から会長を引き継いで、はや10ヶ月余り経ちました。大過なく新年度を迎えることができるのも、ひとえに学会員の皆様、理事・監事、事務局をはじめ、各種委員会委員（長）、地方支部（長）の方々を支えられてのことに感謝申し上げます。とくに、首都圏におられる玉川英則副会長と2期連続の畿網林事務局長には、事務局での学会運営を円滑に進めていただき誠にありがとうございます。

2014年度は、11月7-8日に中部大学において学術研究発表大会を開催させることができました。韓国のKAGISからは、Hosang Sakong会長をはじめ15名のご参加もいただき、2年ぶりの有意義な大会となりました。福井弘道・竹島喜芳先生をはじめ中部大学の皆様には大会本部を着実に運営いただき大変お世話になりました。改めてお礼申し上げます。1999年以来、本学会とKAGISは毎年交互に、年次大会において国際セッションを開催し、交流を深めて参りました。今回の中部大学での国際セッションは、両学会以外の海外からの参加も可能とし、International Symposium on GISと称して、英語での発表が国際会議での発表業績となるように工夫いたしました。また、一昨年に開催された本学会も共催として協力した京都国際地理学会議からの寄付金を活用して、今年からKAGISでの国際セッションで発表する若手の学生会員には奨学金を与えることを決めさせていただきました。近隣のアジア諸国との国際交流がさらに進展することを期待しております。

続いて、11月13-15日に昨年と同様、お台場の日本科学未来館でG空間EXPOが開催されました。「地理空間情報科学は未来をつくる」と冠された本EXPOは、2010年以降、地理空間情報の産学官での利活用を推進する大きなイベントとなっており、学界を代表する本学会はGIS教育や人材育成においてさらなる期待を受けております。あわせて、2014年9月に、碓井照子元会長が中心となって、日本学術会議から、「地理教育におけるオープンデータの利活用と地図力/GIS技能の育成 - 地域の課題を分析し地域づくりに参画する人材育成 -」

(<http://www.scj.go.jp/ja/info/kohyo/pdf/kohyo-22-t199-3.pdf>)と題した提言が提出されました。会員の皆さんも是非ご一読いただき、GISや地理情報科学の基礎となる地図力/GIS技能の学校教育での展開、さらには次の学習指導要領での地理学や情報学の重要性を主張していきたいと思っております。

今年度の学術研究発表大会は、2013年に台風接近の影響でやむを得ず中止となった慶應義塾大学三田キャンパスでの開催を予定しております。慶應義塾大学の畿網林・河端瑞貴先生を中心に大会本部を組織いただき、10月10-11日の2日間で開催する予定です。学会員皆様の積極的なご参加をお願いいたします。最後に、1991年11月に誕生しました本学会は、来年度に創設25周年を迎えることとなります。その記念事業に向けて準備委員会を発足させました。この25周年記念事業に向けても、皆様の積極的なご参加とご協力をよろしくお願い申し上げます。

【2015年度 GISA 学会賞募集】

【学会賞委員会委員長 寺木 彰浩】

2015年度地理情報システム学会賞の募集を行います。

応募資格者および提出物の内容、受賞者選考・決定方法は以下のホームページでご確認ください。

<http://www.gisa-japan.org/awards/index.html>

自薦、他薦を問わず、たくさんのご応募をお待ちしております。

選考結果は9月末日までに応募者各位にご連絡いたします。

また、受賞者は、本年10月10日（土）～11日（日）に慶應義塾大学三田キャンパスにて開催される第24回研究発表大会で表彰されます。

募集部門：

「研究奨励部門」（本年3月末日の時点で35歳以下の者）

「学術論文部門」

「ソフトウェア・データ部門」

「教育部門」

「著作部門」

応募期限：2015年7月15日（水）

提出先：地理情報システム学会事務局

【学会からのお知らせ】

■ 2015年度一般社団法人地理情報システム学会定時社員総会のご案内

社員総会で議決権を有するのは代議員の方のみですが、他の正会員の方も出席し意見を述べていただくことができます。

日時：2015年5月30日（土）15：00～16：00（予定）

場所：東京大学工学部 14号館 2階 144番教室
東京都文京区本郷 7-3-1

■ 2015年度学術研究発表大会のご案内

2015年度地理情報システム学会研究発表大会は、10月10日（土）、11日（日）の両日、慶應義塾大学（三田キャンパス）にて開催されます。

発表申し込みの手続き方法など詳細は、決まり次第、メールニュースやHPでご案内いたします。

（発表申込スケジュール：予定）

アブストラクト提出：7月1日（水）～7月15日（水）正午必着

講演論文集用原稿提出：例年より締切が2週間早まります。

論文データ 7月1日（水）～8月15日（土）正午必着

論文（紙） 7月1日（水）～8月15日（土）当日消印有効

■ 日本地球惑星科学連合 2015年大会のご案内

地理情報システム学会の加盟する日本地球惑星科学連合の大会が、5月に開催されます。当学会が運営するセッションは以下のとおりです。

(1) GIS（英語）

(2) 地理情報システム（日本語）

(3) 人間環境と災害リスク（共催/日本語）

他にも地理学、地図学、測量学などを対象としたGISと関連が深いセッションも開催されます。

会期：2015年5月24日（日）～28日（木）

会場：幕張メッセ（千葉市美浜区中瀬 2-1）

事前参加登録（当日登録より割安）：

～2015年5月12日（火）17：00

URL：<http://www.jpogu.org/meeting/>

■ INQUA（国際第四紀学連合）2015名古屋大会のご案内

この夏、4年に1回開催される国際第四紀学連合（INQUA）の第19回大会が、名古屋で開催されます。アジアで2回目、日本で初めての開催です。

大会期間：2015年7月27日（月）～8月2日（日）

会場：名古屋国際会議場（名古屋市熱田区熱田西町1-1）

URL：<http://inqua2015.jp/>

【委員会報告】

■ 企画委員会 [委員長：小荒井 衛]

G空間 EXPO 地理情報システム学会主催シンポジウムの報告

G空間 EXPO では例年地理情報システム学会主催のシンポジウムが開催されていますが、G空間 EXPO 2014 では11月15日（土）の午後に、「一般市民向けの地理空間情報の利活用に向けてーGIS教育を中心にー」と題して、GIS教育に焦点を当てたシンポジウムを開催しました。今回のシンポジウムは、学会の主要な委員会や分科会からパネラーを推薦いただき、彼らによる10分程度の発表とパネルディスカッションにより構成されています。

まずは学校GIS教育をテーマにして、教育委員会の酒井高正先生（奈良大学）、教育現場の最前線の島川陽一先生（サレジオ工業高等専門学校）、文部科学省教科書調査官の三橋浩志氏が話題提供を行いました。次いで社会人GIS教育をテーマに、自治体分科会の小泉和久氏（浦安市役所）、GIS資格認定委員会の大伴真吾氏（朝日航洋（株））、公務員対象のGIS研修を担当している国土交通大学校測量部長の小荒井衛氏が話題提供を行いました。最後に市民GIS教育をテーマに、FOSS4G分科会のベンカテッシュ ラガワン先生（大阪市立大学）、防災分科会の畑山満則先生（京都大学）が話題提供を行いました。その後、1時間程度のパネルディスカッションを行いました。参加人数は20名程度と少なかったものの、活発な意見交換がなされました。主な議論内容は、学校教育現場はGISに何を期待しているのか、国が整備すべき地理空間情報は何か、GIS教育ではGIS操作方法だけでなくプログラミング技術の伝授も必要である、などでした。今回のシンポジウムで



何か結論や提言が出された訳ではありませんが、今後もこのような議論を定期的に行っていくことの重要性が、会場全体の共通認識として得ることができました。最後に、登壇して話題提供いただいた方々、会場から積極的に発言してシンポジウムを盛り上げてくださった皆様に心から感謝します。

■ 教育委員会 [委員長：酒井 高正]

「2015年度 初等中等教育におけるGISを活用した授業に係る優良事列表彰」(予告)

2015年度も表記の表彰事業を予定しております。詳細は後日発表する募集要項等にて発表いたします。

【応募資格】

日本国内の初等中等教育現場において、GISを実践的に活用した授業に取り組んでいる教員等(※)の個人又はグループ。(学会員に限りません。)

※ 教員等：初等中等教育現場におけるGISを実践的に活用した授業の取り組みに関わっていれば、教員以外の方も対象となります。

【募集期間】

2015年7～8月頃の予定です。

■ GIS資格認定協会 [幹事長：大伴 真吾]

GIS研究発表大会GISCA特別セッションの講演資料をGISCAのWebサイトで公開いたしました。

<http://www.gisa-japan.org/gisca/index.html>

GIS上級技術者が、社会の中のどこに関わり、どのような研究や業務を行ってきたのか、あるいは、様々な経験を踏まえたGIS分野への提言など、大変有意義な資料です。当日参加できなかった方はもちろん、参加された方もぜひご覧ください。

今年度は隔年で行っているGIS名誉上級技術者の資格贈与の年です。年度当初から準備を始め、連携学協会より候補者を推薦をいただき、2月18日に審査委員会を実施する運びとなりました。なお、GIS名誉上級技術者の資格贈呈式は5月に執り行う予定です。

2015年2月10日時点の認定件数は次の通りです。

GIS名誉上級技術者 15名

GIS上級技術者 400名

GIS教育プログラム 28件

【支部報告】

■ 東北支部 [井上 亮]

東北地方の会員間の情報交換・交流の場を創出することを目的に3年前より開催している「東北支部研究交流会」を、本年度は東北大学片平キャンパスにて2014年12月2日(火)に開催いたしました。大学の研究者による地理情報の分析手法開発や情報発信の検討、観光行動など地域分析の紹介に加えて、国土地理院から最新の地理空間情報の整備・公開状況に関する話題提供がありました。今後も東北地方の産官学の連携を促進し、会員間の交流を活性化していきたいと考えております。来年度も12月上旬に研究交流会の開催を検討しておりますので、ふるってご参加ください。

■ 関西支部

[田中 一成]

2014年11月27日(金)に薬業年金会館にて、第15回の『関西地域GIS自治体意見交流会』を開催しました。“関西G空間フォーラム”と題して、関西地区のGIS関係団体が一堂に会して2012年度から開催するフォーラムの一環として当学会関西支部が主催するものです。産・官・学の総勢198名の参加を得ての開催となりました。“合同シンポジウム”として、午前中に行われた国土地理院近畿地方測量部が主催する第一部『測量技術講演会』に続いて、午後に第二部として本交流会、さらに第三部としてパネルディスカッションを実施しました。「自治体の未来とGIS」をテーマに、吉川真地理情報システム学会関西支部長の挨拶につづいて、大阪府GIS大縮尺空間データ官民共有化推進協議会として大阪府の矢野定男氏、さらに北海道室蘭市の丸田之人氏、和歌山県の丸本一樹氏、そして関西大学の窪田諭氏、合計4名の講師から自治体GIS利用の具体的な事例にかんするわかりやすい講演が行われました。パネルディスカッションでは、昨年にひきつづき大阪府富田林市の浅野和仁氏がコーディネータとなり、第一部の講師から国土地理院の伊藤裕之氏を迎えた合計5名のパネラにより、G空間社会における自治体GISについて、会場を交えて積極的な意見交換が行われました。



ご報告が遅れておりましたが、関西支部が主催しております『GIS上級技術者教育講座(GISブラッシュアップ・セミナー)』は、第13回を2014年6月7日(土)に「人間と機械」をテーマとして実施しました。神戸大学大学院の吉田武史氏による講義と、事務局をコーディネータとした「最新GIS技術と利用」と題する技術報告会、そして今回テーマに関するディスカッションを24名の参加を得て開催しました。今年度開催を待ちかねていた上級技術者を中心にして、さまざまな専門で活躍する専門家による活発な議論が行われました。

第14回の『GIS上級技術者教育講座(GISブラッシュアップ・セミナー)』は2014年11月29日(土)に「社会・経済・GIS」をテーマとして実施しました。株式会社JPSの平下治氏、応用技術株式会社の谷口彰氏の2名の講師によって38名の参加を得て開催しました。社会・経済活動とGIS技術の接点と利用について、講義内容から発展的な話題まで、専門家や研究者、上級技術者をめざす学生等による議論が行われました。



【分科会報告】

■自治体分科会

【浅野 和仁】

G空間オープンデータ活用セミナー（第8回 GIS基礎技術研究会）

このセミナーは2013年11月、及び2014年11月に国土交通省国土政策局主催で日本科学未来館において開催しているG空間EXPOのGeoエデュケーションプログラムから派生したもので、自治体の持つ空間データや統計データ等のオープンに利用できるデータを活用して地域課題を見出し、課題解決に向けたケーススタディに取り組むワークショップを東京だけでなく地方都市でも開催しようと、国土交通省国土政策局とGIS基礎技術研究会（代表；九州大学三谷泰浩）が共催して、2月7日（土曜日）に福岡市の福岡県農林整備センターで開催されました。自治体分科会は伊能社中とともにワークショップの進行、グループ討議のファシリテーションを担当しました。

午前には約100名の参加者の中で、国際大学の庄司昌彦氏が「G空間オープンデータの活用に向けて」、浦安市の小泉和久氏が「浦安市におけるGIS活用と人材育成」について、それぞれにホットな話題を提供され、続いて富田林市の浅野を加えた3名と国土情報課長の西澤明氏をコーディネータとしたパネルディスカッションで、それぞれの話題をさらに掘り下げていきました。

午後はあおきGIS研究所の青木和人氏が講師となって「GIS



写真は、ご講演中の「国際大学の庄司氏」

と地理空間オープンデータ活用ワークショップ」が行われました。約70名の参加者が7つのグループに分かれて、事前に用意した福岡県糸島市の防災課題と、大阪府富田林市の人口減少課題に関する地理空間情報や統計データをGISに展開し、個別要因の把握や関連要因の重ね合わせなど、地域課題の見える化を通じて、地域課題の抽出、整理、対応策などの検討を行い最後に各グループから検討内容の発表が行われました。本ワークショップは、GIS普及の最大課題であるGIS操作部分を奈良大学、大分大学などのNPO法人「伊能社中」の学生メンバーに担ってもらい、参加者はGISで作成された様々な地域課題地図の検討のみに専心できる内容となっています。また、ワークショップ後、GISに興味をもたれた方々がすぐにGISを利用体験してもらえるようにフリーオープンソースQGISを利用しているところも、大きな特徴です。

福岡をはじめ九州地区ではこれまで、このようなGIS操作に縛られることなく、空間データを活用した地域課題の検討に集中できるワークショップは初めてとのことで、参加者からは大変な好評を得ることができました。自治体分科会では今後もこのようなセミナー、ワークショップに対する支援を進めていきたいと考えていますので、各地方支部はじめ、多くのお方からのご要望をお待ちしています。

今回のセミナー終了後、分科会メンバーで天神に繰り出して、玄界灘の海産物と博多ラーメンに舌鼓を打ちながら、各自家路につきました。



■セキュリティ分科会

【谷口 彰】

平成27年2月20日（金）大阪研修センターにてセミナーを開催いたしました。「IoT(Internet of Thing)時代に向けた新たな情報産業の創出について」と題して、経済産業省 商務情報政策局 情報処理振興課 野口 聡課長と、「オープンデータを俯瞰する」と題して、あおきGIS研究所 青木 和人所長に発表していただきました。

野口課長からは、「経済産業省が推進する”攻めのIT施策”」のご紹介を頂き、現状の問題点から今後の促進施策等を説明頂きました。青木所長からは、オープンデータの現状と問題点、将来展望等をお話いただきました。ディスカッションでは、オープンデータの在り方、情報の取り扱いに関する認識などについて、参加者を交えた活発な議論が交わされました。



写真は、左から経済産業省の野口氏とあおき GIS 研究所の青木氏

【学会後援行事等のお知らせ】

■後援■ 第11回 GIS コミュニティフォーラム

主催：ESRI ジャパンユーザ会

会期：2015年5月28日（木）～29日（金）

会場：東京ミッドタウン（東京都港区赤坂9-7-1）

URL：<http://www.esri.jp/>

【事務局からのお知らせ】

■ 2015年度年会費納入のお願い

今号は、年会費納入方法が口座振替で無い会員の方々に、2015年度分（2015年4月1日～2016年3月31日）年会費の郵便振込専用用紙を同封しております。納入期限は4月30日（木）ですので、お早めにお手続きください。

年会費は正会員10,000円、学生会員5,000円です。

期限に遅れますと、6月発行のニューズレター94号および『GIS-理論と応用 Vol.23-No.1』の送付が停止されるほか、ホームページの会員専用コンテンツの閲覧が出来なくなります。

なお、新年度から年会費の口座振替をご希望の方は、4月20日（月）までに、事務局に申込用紙をご請求ください。

■ 学生会員さんへ 学生証のコピー提出のお願い

4月以降も学生の方は、新年度の学生証のコピーを事務局までご提出ください。4月30日（木）必着、FAXまたはメール添付でお願いします。

提出が無い場合、2015年度は学生会員としてのお取り扱いができなくなります。学生会員の方には、別途、詳細を連絡済みですので、必ずご確認ください。

※コピーは「氏名」「発行者」「有効期限」が分かるように取ってください。

※コピーの余白に「学部生」「修士課程」「博士課程」の別を明記してください。

※2014年度に提出された方も、再度ご提出ください。以前のものは既にシュレッダー裁断しています。

※学生証が4月中に発行されない場合は、その旨、事務局までご連絡ください。

■ 年会費口座振替ご利用の方へのお願い

2015年度分（2015年4月1日～2016年3月31日）年会費の口座引き落とし日は6月29日（月）です。口座残高のご確認をお願いいたします。

年会費は正会員9,000円、学生会員4,000円です。

■ 変更届等について

就職、転職、所属や自宅の場所が変わった等々の場合、速やかに変更届をご提出ください。変更はオンラインで出来ません。

<https://www.gisa-japan.org/member/login.php>

■ 『GIS-理論と応用』への広告掲載について

会員の方は、学会誌『GIS-理論と応用』に製品・技術等の広告を掲載することができます。ご希望の方は、学会事務局までご連絡ください。

1. 広告料金（A4・1頁単位）（消費税別）

後付	50,000円（1回）
表紙3（裏表紙の裏）	50,000円（1回）
※1/2頁の場合は1回30,000円（消費税別）	
2. 原稿について

データでの提出（PDF原稿など26cm×18cm白黒印刷）
3. 提出締切

（6月末発行No.1に掲載）5月25日
（12月末発行No.2に掲載）11月25日
4. 発行部数 1,500部

■ 学会からの送付物へのチラシ封入について

会員の方は、「ニューズレター」『GIS-理論と応用』送付時に、書籍等広告のチラシを同封することができます。ご希望の方は、学会事務局までご連絡ください。

封入手数料 1部20円×会員数

チラシ送付先、送付期限等については、直接事務局までお問い合わせください。

■ 学会ホームページやメールニュースへの掲載ご希望の方へ

学会ではイベントや公募等のお知らせを、ホームページに掲載する他、個人会員向けメールニュースでも配信しています。学会ホームページのトップページでもご案内していますので、そちらを参照の上、事務局までお申込み下さい。現在、掲載料等は無料です。

<http://www.gisa-japan.org/news/request.html>

また、フェイスブックやツイッターでもご案内することができます。こちらはもう少し肩の力を抜いたものです。掲載ご希望の方は、事務局までお問い合わせください。

2015年2月末現在の個人会員 1263名、 賛助会員 65社

賛助会員

(2口) NTTタウンページ㈱

(1口) アクリーグ㈱, 朝日航洋㈱, アジア航測㈱, いであ㈱, ㈱インフォマティクス, ESRIジャパン㈱, ㈱NTTデータ数値システム, 愛媛県土地家屋調査士会, 応用技術㈱, 大阪土地家屋調査士会, オートデスク㈱, ㈱オオバ, ㈱かんこう, 関東甲信越東海GIS技術研究会, ㈱岐阜県建設研究センター, 九州GIS技術研究会, 協同組合くびき野地理空間情報センター, 近畿中部北陸GIS技術研究会, ㈱こうそく, 国際航業㈱, 国土情報開発㈱, ㈱古今書院, 寿精版印刷㈱, GIS総合研究所いばらき, ㈱GIS関西, ジェイアール西日本コンサルタンツ㈱, ㈱JPS, ㈱ジオテクノ関西, ㈱ジオプラン, ㈱昭文社, ㈱ジンテック, ㈱ゼンリン, ㈱谷澤総合鑑定所, 玉野総合コンサルタント㈱, 中四国GIS技術研究会, テクノ富貴㈱, 東北GIS技術研究会, ㈱ドーン, 内外エンジニアリング㈱, 長野県GIS協会, にいかたGIS協議会, 日本エヌ・ユー・エス㈱, 日本コンピュータシステム㈱, 日本情報経済社会推進協会, 日本スーパーマップ㈱, ㈱日本測量調査技術協会, 日本土地家屋調査士会連合会, ㈱日本地図センター, パシフィックコンサルタンツ㈱, ㈱パソコ, 東日本総合計画㈱, 北海道GIS技術研究会, ㈱マップクエスト, ㈱松本コンサルタント, 三井造船システム技研㈱, ㈱三菱総合研究所, 三菱電機㈱, ヤフー㈱, ㈱リモート・センシング技術センター

自治体会員：(1口) 大阪府高槻市役所, 経済産業省特許庁, 総務省統計局統計研修所, 長野県環境保全研究所, 福岡県直方市

学会分科会連絡先一覧

- 自治体：浅野和仁 (大阪府富田林市)
事務局：青木和人 (あおきGIS研究所 Tel 050-5850-3290)
E-mail: kazu013057@gmail.com
- ビジネス：高阪宏行 (日本大学 Tel 03-3304-2051)
E-mail: kohsaka@chs.nihon-u.ac.jp
- 防災GIS：畑山満則 (京都大学防災研究所 Tel 0774-38-4333)
E-mail: hatayama@imdr.dpri.kyoto-u.ac.jp
- 土地利用・地価GIS：碓井照子 (奈良大学)
事務局：西端憲治 (㈱セイコム Tel 0721-25-2728)
E-mail: totiriyo-sig@seicom.jp
- 時空間GIS：吉川耕司 (大阪産業大学 Tel 072-875-3001)
E-mail: yoshikaw@due.osaka-sandai.ac.jp
- 地図・空間表現：若林芳樹 (首都大学東京 Tel 042-677-2601)
E-mail: wakaba@tmu.ac.jp
- セキュリティSIG：内布茂充 (行政書士 内布事務所 Tel 090-2284-4125)
E-mail: spcn87q@royal.ocn.ne.jp
- FOSS4G分科会：Venkatesh Raghavan (大阪市立大学)
連絡先：嘉山陽一 (朝日航洋㈱ TEL049-244-4032)
E-mail: youichi-kayama@aeroasahi.co.jp

地方支部の連絡先一覧

- <北海道支部>
支部長：北海道大学 橋本雄一
Tel: 011-706-4019, E-mail: you@let.hokudai.ac.jp
- <東北支部>
支部長：東北大学 井上亮
Tel: 022-795-7478, E-mail: rinoue@plan.civil.tohoku.ac.jp
- <北陸支部>
支部長：新潟大学 牧野秀夫
Tel: 025-262-6749, E-mail: makino@ie.niigata-u.ac.jp
- <中部支部>
支部長：中部大学 福井弘道
連絡先：杉田暁 (中部大学)
Tel: 0568-51-9894 (内線 5714), E-mail: satoru@isc.chubu.ac.jp
- <関西支部>
支部長：大阪工業大学 吉川眞
連絡先：田中一成 (大阪工業大学)
Tel: 06-6954-4293, E-mail: gisa@civil.oit.ac.jp
- <中国支部>
支部長：広島工業大学 岩井哲
Tel: 082-921-5486, E-mail: s.iwai.i5@it-hiroshima.ac.jp
- <四国支部>
支部長：徳島大学 塚本章宏
Tel: 088-656-7616, E-mail: tsukamoto.akihiro@tokushima-u.ac.jp
- <九州支部>
支部長：九州大学 三谷泰浩
Tel: 092-802-3399, E-mail: gisaku@doc.kyushu-u.ac.jp
- <沖縄支部>
支部長：琉球大学 宮城隼夫
E-mail: miyagi@ie.u-ryukyu.ac.jp
連絡先：有銘政秀 ((株) ジャスミンソフト)
Tel: 098-921-1588, E-mail: arime@jasmisoft.co.jp

■ 編集後記 ■

最近、オープンデータ関連の講演等の依頼を多くいただき、本号でもご報告させていただいていますが、その期待の高さを感じられます。

日本のオープンデータを一躍有名にした福井県鯖江市のトイレ情報は、行政のトイレ施設情報に位置座標、すなわち地理空間情報を付加し、2次利用、かつ機械可読可能なオープンデータ公開したことに特徴がありました。

オープンデータに関心があるが、地理情報が専門でない多様な分野の方々へお話する際には、多くのオープンデータが地理空間情報であり、地理情報システムで活用することの意義をお話させていただいています。

このオープンデータの盛り上がりと共に、地理情報システムを盛り上げていければと思っています。

(青木和人 (あおき GIS 研究所))

地理情報システム学会ニューズレター

第93号 ●発行日 2015年3月25日

■ 発行

一般社団法人 地理情報システム学会

〒113-0032 東京都文京区弥生 2-4-16 学会センタービル 4階
TEL/FAX: 03-5689-7955 E-mail: office@gisa-japan.org
URL: <http://www.gisa-japan.org/>

■ 弥生雑記 ■

大学院生時代、失礼のないように、と諸先輩に注意を受けていた、いささか気の張る場所を一人で訪ねたことがあった。係員の無機質な対応に、若かった私は値踏みされているような感すら受けたが、目的の古文書にたどり着くことはできた。「ところで、所属のゼミはどちら？」持参の紹介状を一瞥した係員に指導教員の名前を告げると、態度が一変。「そのゼミであれば、間違いはない」と、当初は午前中だけの閲覧許可のはずが、終日でも構わない、となった。有難く厚意に甘えたものの、緊張で指が震えた。指導教員、先輩方の顔に泥を塗ってはならない、また万が一、後輩に迷惑をかけるようなことがあっては、という重圧がもの凄かったことを覚えている。

どこかに「所属する」ということは、こういうことなのだろう、と若かった私はこの一件から学んだ。窮屈な面もあるが、知らず知らずのうちに有形無形の恩恵に浴していることもある。だからといって気負うことはないが、自覚というものは必要ではないだろうか。移動の季節、新年度のスタートを前に、そんなことを改めて考えた。

(学会事務局)